

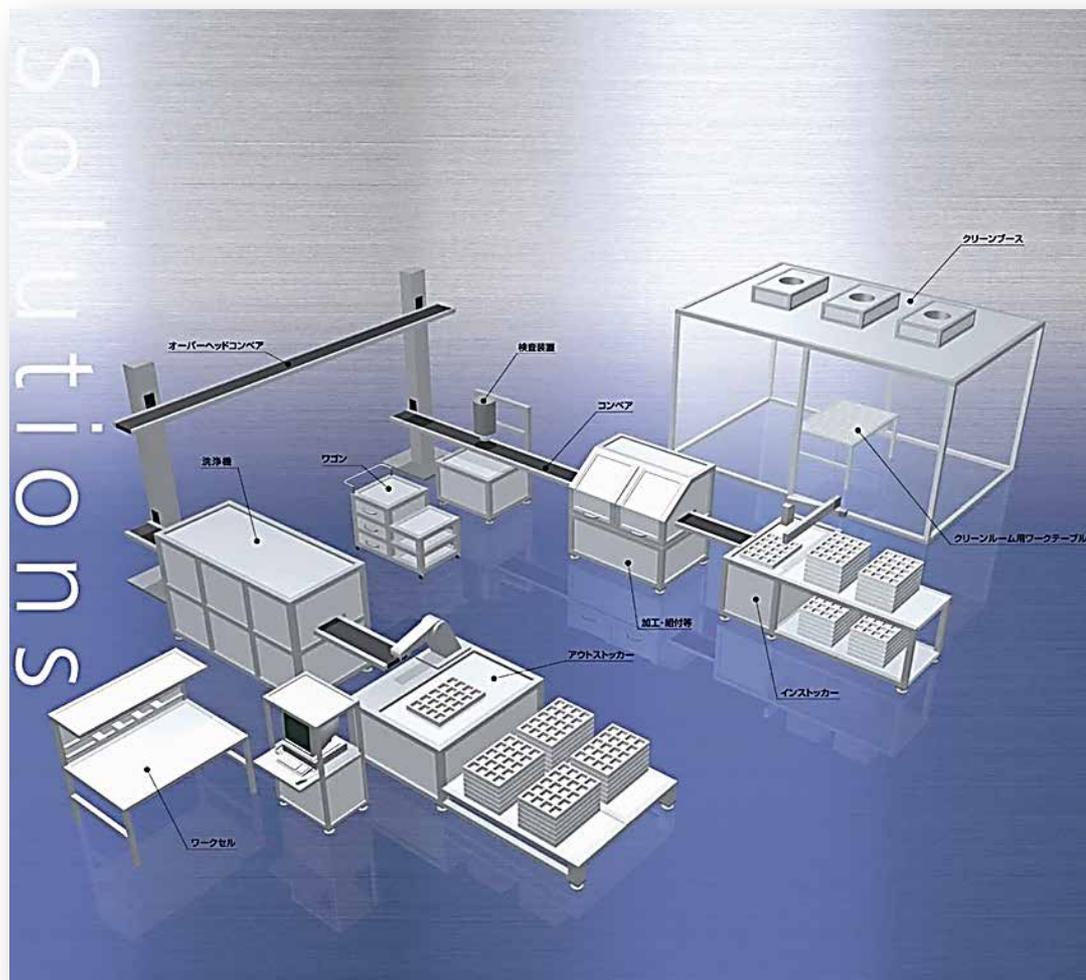


# 第44期定時株主総会 参考資料



# 目次

1. 経営指標等の推移
2. 業績推移 —売上高・経常/営業利益—
3. 業績推移—純資産/総資産・1株当たり純資産額/当期純利益—
4. セグメント別売上高の状況
5. 財務諸表
6. 貸借対照表
7. 損益計算書
8. 会社概要
9. トピックス
10. 3つの事業部門
11. 企業理念・経営方針
12. 環境方針
13. 開発の基本方針
14. 戦略の基本方針

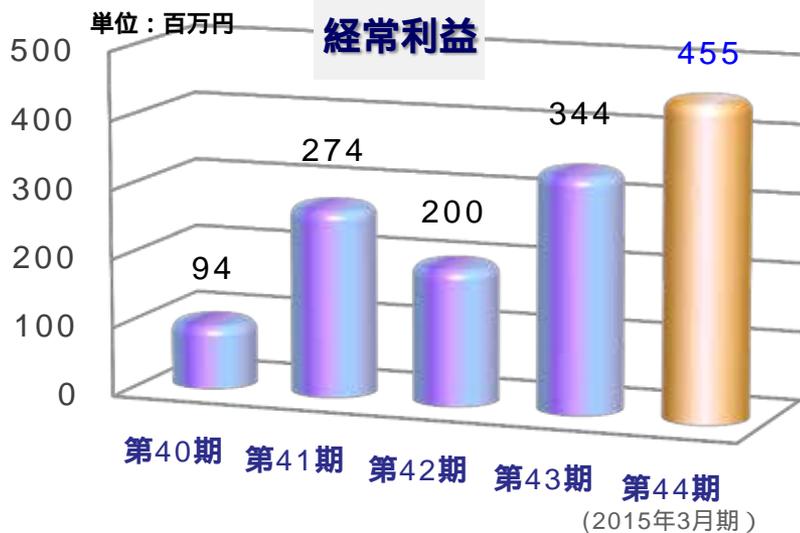
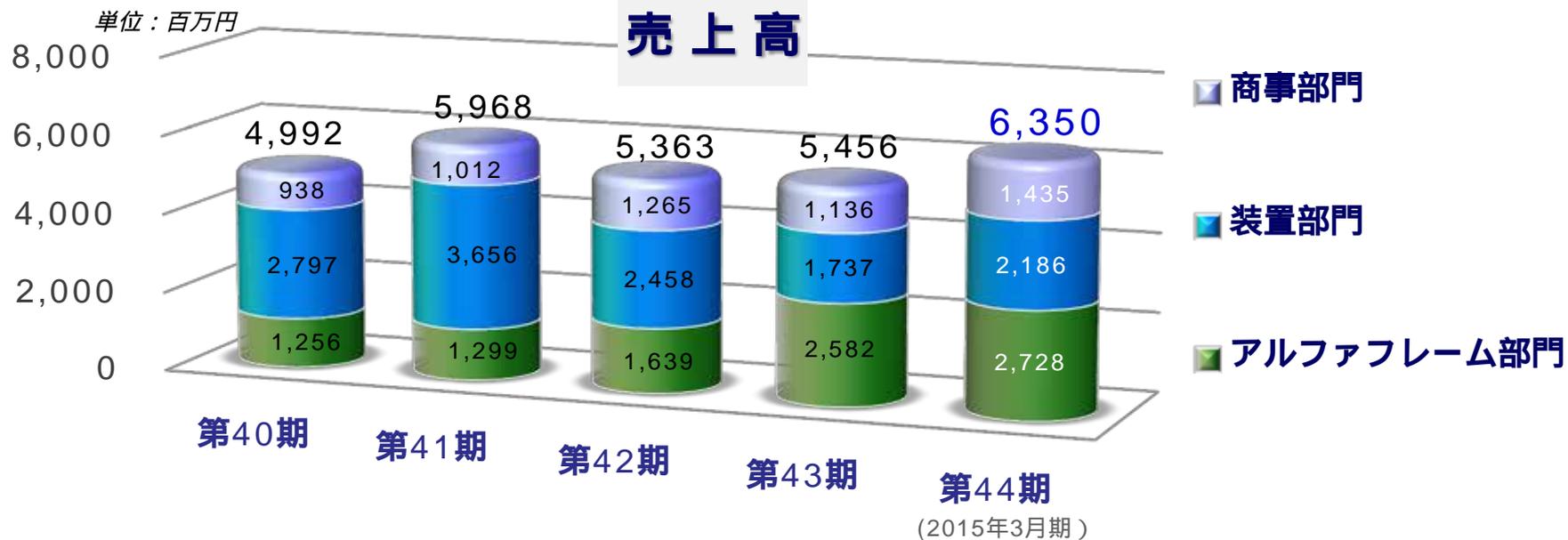


# 1. 経営指標等の推移

回 次		第40期	第41期	第42期	第43期	第44期
決 算 年 月		2011年3月	2012年3月	2013年3月	2014年3月	2015年3月
売 上 高	(百万円)	4,992	5,968	5,363	5,456	6,350
経 常 利 益	(百万円)	94	274	200	344	455
当 期 純 利 益	(百万円)	46	152	120	205	296
持分法を適用した場合の投資利益	(百万円)					
資 本 金	(百万円)	156.1	156.1	156.1	156.1	156.1
発 行 済 株 式 総 数	(株)	55,000	55,000	55,000	5,500,000	5,500,000
純 資 産 額	(百万円)	2,886	3,002	3,041	3,268	3,487
総 資 産 額	(百万円)	5,495	4,976	5,242	5,271	5,431
1 株 当 た り 純 資 産 額	(円)	529.71	551.10	558.25	599.79	640.05
1株当たり配当額(内、1株当たり中間配当額)	(円)	800(-)	1,200(-)	900(-)	14(-)	20(-)
1 株 当 た り 当 期 純 利 益	(円)	8.61	28.05	22.12	37.73	54.39
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	(円)					
自 己 資 本 比 率	(%)	52.5	60.3	58.0	62.0	64.2
自 己 資 本 利 益 率	(%)	1.6	5.2	4.0	6.5	8.8
株 価 収 益 率	(%)	21.8	12.0	12.5	8.3	11.3
配 当 性 向	(%)	92.8	42.8	40.7	37.1	36.8
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	190	875	253	27	172
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	60	57	67	223	262
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	37	43	65	48	76
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	284	1,059	672	428	262
従業員数(外、平均臨時雇用者数)	(名)	140(15)	141(17)	151(14)	158(21)	161(20)

- (注) 1. 当社は連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。  
 2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
 3. 持分法を適用した場合の投資利益につきましては、第43期までは関連会社が存在しないため、第44期では非連結子会社が存在するものの、重要性が乏しいため記載しておりません。  
 4. 2013年4月1日付で普通株式1株につき普通株式100株の割合で株式分割を行っております。第40期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。  
 5. 第41期の1株当たり配当額1,200円には、創業85周年記念配当300円を含んでおります。  
 6. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
 7. 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。

## 2. 業績推移 —売上高・経常利益・営業利益—

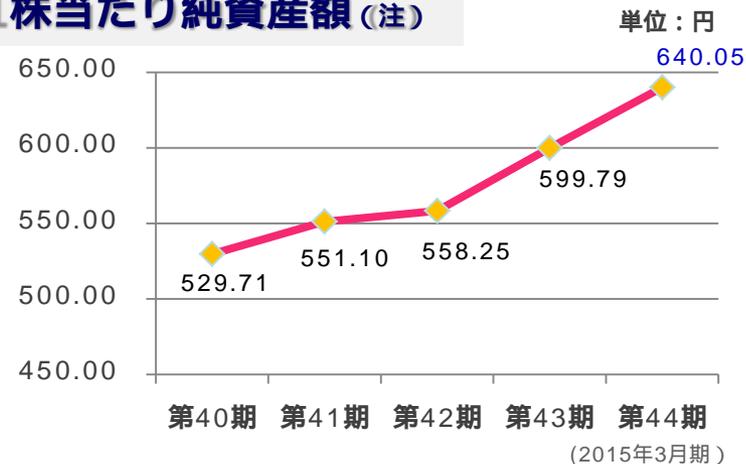


# 3. 業績推移 —純資産/総資産・1株当たり純資産額・1株当たり当期純利益—

## 純資産額/総資産額



## 1株当たり純資産額 (注)



## 1株当たり当期純利益 (注)



## 財政状態の分析

当事業年度末の総資産は、前事業年度末と比べ159百万円増加し、5,431百万円となり、負債合計は、前事業年度末と比べ59百万円減少し、1,943百万円となりました。正味運転資本（流動資産から流動負債を控除した金額）は1,614百万円であり、流動比率は193.4%であります。

なお、当事業年度末の純資産合計は、前事業年度末と比べ219百万円増加し、3,487百万円となりました。自己資本比率は64.2%となっております。

(注) 2013年4月1日付で普通株式1株につき普通株式100株の割合で株式分割を行っております。  
第40期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。

## 4. セグメント別売上高の状況

アルファ フレーム部門	<p>アルファフレーム部門におきましては、当社主力製品「アルファフレームシステム」の拡販ツールである「カクチャ™」及び「マーキングシステム™」を活用し、アルミニウム合金製構造材の付加価値を高めることで、競合他社と差別化を図った提案型営業を継続的に展開いたしました。</p> <p>一般の材料・部品としての売上高は、第1四半期では消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動によって、低調な滑り出しとなりましたが、その後順調に推移し、特に第4四半期では大きく伸長した結果、通期としては前期を上回る売上高となりました。また、継続的に受注を確保しているFA装置等に使用される「アルファフレームシステム」の大口案件は、第1四半期では生産計画の谷間となったことにより大きく売上高が減少したものの、第2四半期以降は順調に推移し、通期では前期並みの売上高となりました。</p> <p>この結果、当部門の売上高は2,728百万円（前期比5.7%増）となりました。</p>
装置部門	<p>装置部門におきましては、当社の技術力を活かした質の高いFA装置の提案活動を推進いたしました。第1四半期では、同じく駆け込み需要の反動によって自動車部品製造企業向け大型物件、FPD製造企業向けクリーンブースともに低迷いたしました。第2四半期以降は自動車部品製造企業向け投資設備案件を堅調に受注確保いたしました。第3四半期以降には、更にFPD製造企業向けクリーンブースの売上高が伸長し、また医薬品製造企業向け搬送装置の大型受注も確保したこと等により、売上高は前期に比べ大幅な増加となりました。</p> <p>この結果、当部門の売上高は2,186百万円（前期比25.8%増）となりました。</p>
商事部門	<p>商事部門におきましては、工業用砥石、油脂類等の消耗品関係が、他部門同様に駆け込み需要の反動によって、期首は低調な滑り出しとなりましたが、第1四半期後半には回復に転じ、第2四半期以降は順調に推移した結果、通期では前年並みの売上高となりました。なお、機械設備関係におきましては、機械部品製造関連企業向けの生産機械設備を継続的に受注したことによって、売上高は前期に比べ大幅な増加となりました。</p> <p>この結果、当部門の売上高は1,435百万円（前期比26.4%増）となりました。</p>

# 5. 財務諸表

**貸借対照表** (2015年3月31日現在) (単位：百万円)

科 目	金 額
<b>資 産 の 部</b>	
流動資産	3,342
固定資産	2,088
有形固定資産	1,410
無形固定資産	21
投資その他の資産	657
資産合計	5,431
<b>負 債 の 部</b>	
流動負債	1,728
固定負債	215
負債合計	1,943
<b>純 資 産 の 部</b>	
株主資本	3,369
資本金	156
資本剰余金	146
利益剰余金	3,102
自己株式	34
評価・換算差額等	117
その他有価証券評価差額金	117
純資産合計	3,487
負債及び純資産合計	5,431

**損益計算書** 自 2014年4月 1日 至 2015年3月31日 (単位：百万円)

科 目	金 額
売上高	6,350
売上原価	4,979
売上総利益	1,371
販売費及び一般管理費	925
営業利益	445
営業外収益	12
営業外費用	1
経常利益	455
税引前当期純利益	455
法人税等	159
当期純利益	296

## 6. 貸借対照表 (2015年3月31日現在)

流動資産	当事業年度末における流動資産の残高は、前事業年度末と比べ165百万円増加し、3,342百万円となりました。これは主に、大型設備案件の売上増加により、受取手形が112百万円、電子記録債権が284百万円、それぞれ増加した一方で、仕入債務の支払い増加や新工場建設に係る支払いにより現金及び預金が165百万円減少したことや、機械設備案件の仕掛減により、仕掛品が122百万円減少したことなどによります。
固定資産	当事業年度末における固定資産の残高は、前事業年度末と比べ5百万円減少し、2,088百万円となりました。これは主に、保険積立金の増加23百万円があった一方で、有形固定資産の減価償却等による減少41百万円があったことなどによります。
流動負債	当事業年度末における流動負債の残高は、前事業年度末と比べ73百万円減少し、1,728百万円となりました。これは主に、電子記録債務が119百万円増加した一方で、買掛金が135百万円、設備支払手形が195百万円、それぞれ減少したことなどによります。
固定負債	当事業年度末における固定負債の残高は、前事業年度末と比べ14百万円増加し、215百万円となりました。これは主に、退職給付引当金が11百万円増加したことなどによります。
純資産	当事業年度末における純資産は、前事業年度末と比べ219百万円増加し、3,487百万円となりました。これは主に、配当金の支払い76百万円があった一方で、当期純利益の計上296百万円があったことにより、利益剰余金が220百万円増加したことなどによります。

# 7. 損益計算書 (自 2014年4月1日 至 2015年3月31日)

売上高	<p>当事業年度は、アルファフレーム部門において、拡販ツールである「カクチャ™」及び「マーキングシステム™」を活用し、アルミニウム合金製構造材の付加価値を高めることで、競合他社と差別化を図った提案型営業を継続的に展開いたしました。一般の材料・部品としての売上高は、第1四半期では消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動によって、低調な滑り出しとなりましたが、その後順調に推移し、特に第4四半期では大きく伸長した結果、通期としては前期を上回る売上高となりました。また、継続的に受注を確保しているFA装置等に使用される「アルファフレームシステム」の大口案件は、第1四半期では生産計画の谷間となったことにより大きく売上高が減少したものの、第2四半期以降は順調に推移し、通期では前期並みの売上高となりました。</p> <p>装置部門においては、当社の技術力を活かした質の高いFA装置の提案活動を推進いたしました。第1四半期では、同じく駆け込み需要の反動によって自動車部品製造企業向け大型物件、FPD製造企業向けクリーンブースともに低迷いたしました。第2四半期以降は自動車部品製造企業向け投資設備案件を堅調に受注確保いたしました。第3四半期以降には、更にFPD製造企業向けクリーンブースの売上高が伸長し、また医薬品製造企業向け搬送装置の大型受注も確保したこと等により、売上高は前期に比べ大幅な増加となりました。</p> <p>商事部門においては、工業用砥石、油脂類等の消耗品関係が、他部門同様に駆け込み需要の反動によって、期首は低調な滑り出しとなりましたが、第1四半期後半には回復に転じ、第2四半期以降は順調に推移した結果、通期では前年並みの売上高となりました。なお、機械設備関係におきましては、機械部品製造関連企業向けの生産機械設備を継続的に受注したことによって、売上高は前期に比べ大幅な増加となりました。これらの結果、売上高は6,350百万円（前期比16.4%増）となりました。</p>
売上総利益	<p>当事業年度は、平成25年12月に完成した新工場〔技術センター(立山工場C棟)〕の本格稼働によって、アルファフレームの切断工程からマーキング工程に至る一貫した生産ラインを確立したことに加え、大型構造物の案件等への迅速な対応が可能となる生産環境が整ったことによる生産性の向上が寄与し、売上総利益は1,371百万円（前期比12.9%増）となりました。</p>
販売費及び一般管理費	<p>販売費及び一般管理費につきましては、継続的かつ効果的な人的投資及び販促活動を推進した結果、925百万円（前期比5.3%増）となりました。</p>
営業利益 経常利益 当期純利益	<p>当事業年度は、売上高並びに売上総利益の増加に伴い、販売費及び一般管理費の微増はあったものの、営業利益が445百万円（前期比32.7%増）、経常利益が455百万円（前期比32.2%増）、当期純利益が296百万円（前期比44.1%増）となりました。</p>

# 8. 会社概要

## 社名 エヌアイシ・オートテック株式会社

国産初のアルミ構造材（商標名「ALFA FRAME SYSTEM【アルファフレームシステム】」を自社開発し、アルファフレームを使用したクリーン機器やF A・省力化装置等の設計・製作・開発を行っております。

1927年の工業用ヤスリ工場から出発し、2006年6月にジャスダック証券市場（現：東京証券取引所）に上場、本年で創業88周年を迎えました。

創業	1927年4月（昭和2年）	設立	1971年5月17日
代表者	代表取締役会長CEO 西川 浩司		
本社所在地	富山県富山市清水元町7番8号		
東京本社	東京都江東区有明三丁目7番26号 有明フロンティアビルB棟11階		
資本金	156,100千円（2015年3月末日）		
従業員数	181名うち正社員161名（2015年3月末日）		



# 9. トピックス

## ■ 海外子会社設立

2015年1月に、海外初となる現地法人をタイ王国に設立いたしました。

現地法人名は「NIC Autotec (Thailand) Co., Ltd.」です。現在、本格稼働に向けて、準備を進めております。



NIC Autotec(Thailand)Co.,Ltd.

## ■ 愛知事業所開設

東海地区の営業拠点として愛知県刈谷市内に事務所（名称：アルファフレーム東海）を開設していましたが、この度、営業のみならずFA装置等のメンテナンス及び製作にも取り組むため、2015年4月に名古屋市へ移転し、新たに“愛知事業所”としてスタートいたしました。



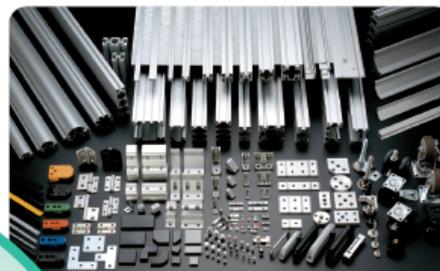
愛知事業所

# 10. 3つの事業部門

アルミ製構造部材から高度な自動化装置、  
さらにはクリーンルームの製造・販売までの一貫体制

- アルミ製構造部材の国内でのパイオニア的存在
- 経験豊富なCAD設計陣による技術設計支援・サービス
- 新製品開発力
- 豊富な製品群“1500以上”による多彩なシステムの提供

アルファ  
フレーム  
部門



3つの  
事業部門

アルファフレーム+装置+商事  
=高付加価値技術の提供

装置  
部門



- 幅広い業界で利用される技術
- 特定の業界に依存しない業務体系
- 先端技術力を持つ企業から積極的受注体制

商事  
部門



- 「メーカー機能」を活用した設備の導入提案営業



# 11. 企業理念・経営方針

## ■企業理念

# 公明正大 “志”

甘え・自惚れ・驕り・マンネリは企業の敵である  
変化は常にチャンスを生み出す

## ■経営方針

### 「モノづくりを通じて社会の発展と創造に貢献する」

#### お客様

知恵と技術を結集した高品質な製品とサービスを提供

---

#### 社員

仕事を通じて自己実現の機会を与え、快適で働き甲斐のある職場環境

---

#### 株主

期待と信頼にこたえられるよう最大限の企業努力

---

#### 地域社会

『感謝、感謝』の気持ちで地域に貢献

---

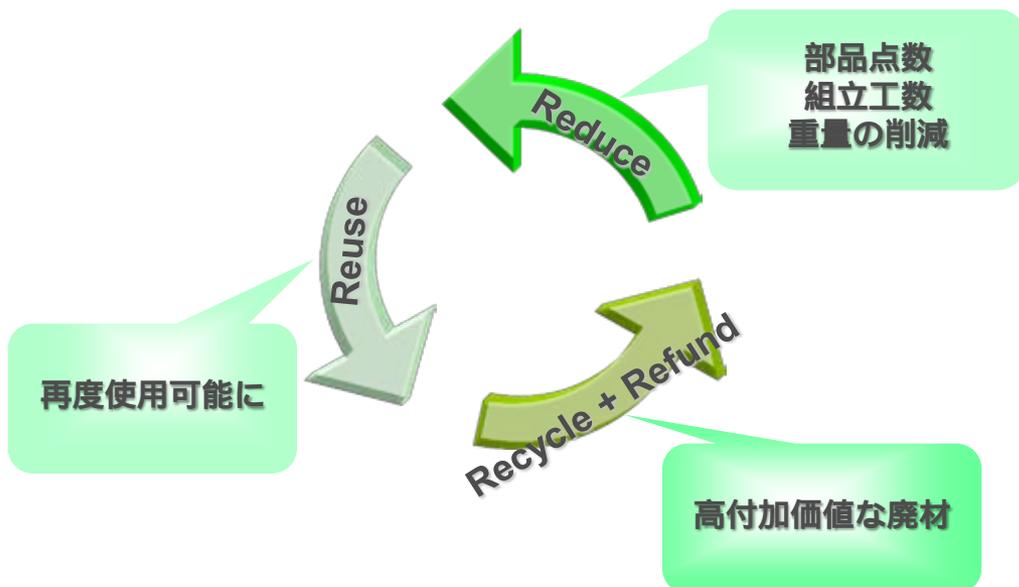
# 12. 環境方針

## ■ 環境理念

当社は、地球環境保全が21世紀における人類の最も重要な課題であることを認識し、将来にわたって人類の夢が守られる持続可能な社会作りを義務として、積極的に社会貢献する。



## ■ アルミの特性



3 R (リデュース・リユース・リサイクル)  
+ 1 R (リファンド) = 4 R  
トータル原価低減

環境に優しい  
グリーンテクノロジー

# 13. 開発の基本方針

## 3部門のシナジーを活かし、早期商品化を目指した製品開発

標準化・汎用化

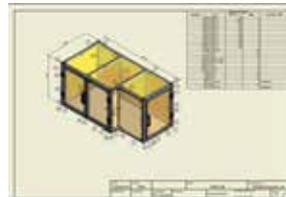
アルファフレーム製品

アクセサリ類の改良/開発

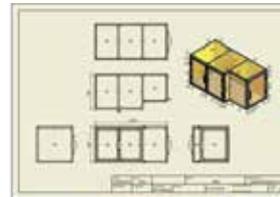
装置関連技術の開発

設計支援 カクチャ™

組立支援 マーキングシステム™



3Dアイソメ図+部品表



2D展開図

カクチャ™

マーキングシステム™



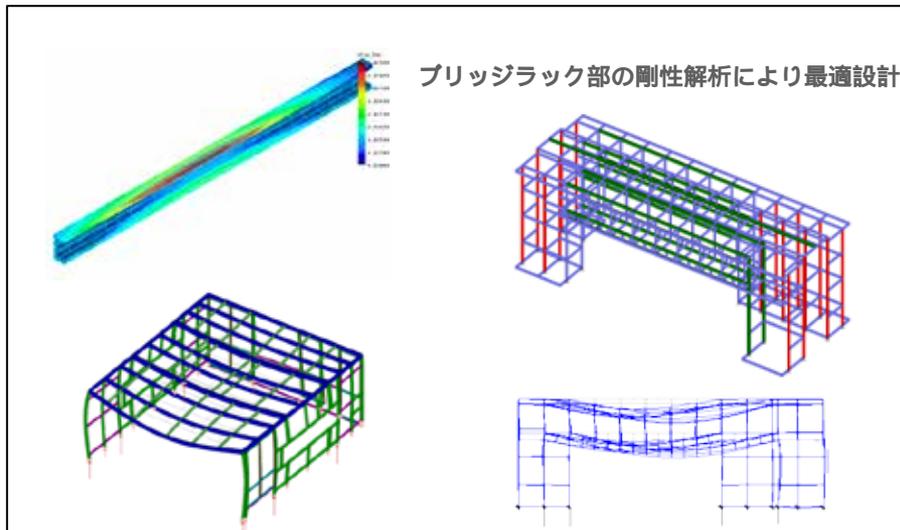
標準カップ式洗浄機



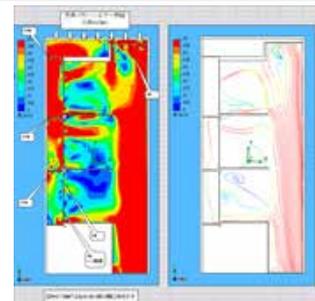
標準クリーンブース

## 安定的・持続的な収益力を高める研究開発

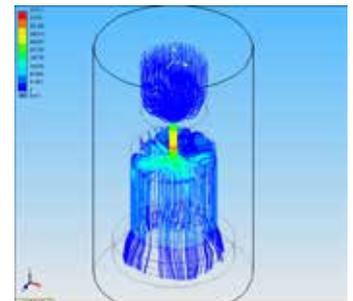
アルミフレーム構造解析



クリーンストッカー  
気流解析



洗浄ノズル流体解析



# 14. 戦略の基本方針

## 良い社員 + 良い製品 = 良い会社

" good folks + good products = good company "

### 人材力 = 企業のチカラ

- ・ 高度な技術・サービスの提供のための人材確保
- ・ 産学連携による技術と人事交流の推進
- ・ 社員のモチベーション維持・向上

### 高付加価値技術の提供

- ・ 技術支援
- ・ 設計支援
- ・ 短納期

### ALFA FRAME SYSTEM<sup>®</sup> をコアとした新たな事業展開

- ・ 設計・組立支援サポートサービス  
“ K A K C H A R PAT. P <sup>TM</sup> ” & “ マーキングシステム PAT. P <sup>TM</sup> ”

# Thank You!

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想並びに記載された内容は、本資料作成日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

本資料に対するお問合せは、以下の管理グループにてお願い申し上げます。

<エヌアイシ・オートテック株式会社 管理部管理グループ>

TEL : 076-425-0738

FAX : 076-422-2712

Mail: [ir@nic-inc.co.jp](mailto:ir@nic-inc.co.jp)

URL : <http://www.nic-inc.co.jp/>



## エヌアイシ・オートテック株式会社



東京本社	/ 〒135-0063	東京都江東区有明3-7-26有明フロンティアビルB棟11F
富山本社	/ 〒930-0034	富山県富山市清水元町7-8
立山工場	/ 〒930-0272	富山県中新川郡立山町塚越398-176
流杉工場	/ 〒939-8032	富山県富山市流杉225
愛知事業所	/ 〒458-0801	愛知県名古屋市長区鳴海町母呂後185
アルファーム関西	/ 〒578-0965	大阪府東大阪市本庄西2-4-29
アルファーム九州	/ 〒837-0907	福岡県大牟田市四箇新町1丁目2

TEL : 03-5530-8060
TEL : 076-425-0738
TEL : 076-463-5578
TEL : 076-422-2578
TEL : 052-629-5067
TEL : 06-6747-2212
TEL : 0944-41-7707

**ご注意 著作権** © 2015 NIC AUTOTEC, INC .

**WARNING** : All Rights Reserved . Unauthorized duplication is a violation of applicable laws.

本資料を権利者の許諾なく無断複製、改変、頒布、翻訳などに使用することは、著作権上、禁じられています。

産業財産権 2015 NIC AUTOTEC, INC . ALFA CLEAN BOOTH & SYSTEM, ALFA FRAME SYSTEMの主要な構成部品は特許、実用新案、意匠権など産業財産権により保護されております。